

## 危険分散のための国産飼料

### 【現状】

現在、日本の畜産史上ほとんど類をみない長期間の飼料の高騰の真ただ中にあります。

何かできることはないかという気持ちから、昨年秋には「飼料が高いし、麦でも作ろうと思うけど、何がいいのか教えて欲しい」、また、今年の春には「トウモロコシを作っていたけど、夏作で牧草をしたいが何がいいのか教えて欲しい」という畜産農家からの問い合わせがありました。

それぞれ、「麦類の試験結果では、オオムギかエンバクの極早生を10月下旬～11月上旬くらいに播種すると、翌年の近畿の梅雨入り平均6月7日までには収穫できます」、「スーダングラスでもいいし、湿気やすい転作田なら、栽培ヒエが安定して収穫できます」と回答しました。

これらはあくまで、自己完結の自給飼料生産の話です。

一方、県内には飼料作物生産受託組織(コントラクター)がいくつかあり、高品質なトウモロコシや飼料稲のサイレージを供給されています。

農林水産省の調べでは、粗飼料自給率は平成2年の85%から令和2年の76%まで減少しているものの、濃厚飼料は飼料用米の普及もあり、10%から13%へ増えています。粗飼料を自給される方はかなり減り、飼料用米の利用は飼料製造メーカー段階ではもっと増えているような実感をうけています。

さて、この飼料高騰はいつまで続くのか、誰にも分からないわけですが、飼料価格は、

①国際相場②海上運賃③為替レートでおおよそ決まります。

それぞれを見ますと、相場高騰はコロナ禍前では中国の需要増、その後、コロナ禍から抜け出した国の飼料需要増、それらを見越した投機の動き、そこにロシアのウクライナ侵攻が加わったことが影響しているとされています。さらに、海上運賃の高騰は、コロナ禍で停滞していた物流が動き出し、コンテナの滞留や貨物船の不足が影響しているとされています。さらに為替がドル高円安となって、飼料高騰に一層拍車をかけています。

### 【対策】

前述のような、「飼料価格高騰」の長期化が想定される中、どのような対策が考えられるでしょうか。

畜種、飼養規模、飼養方法が異なる経営に対して、これで解決というものは残念ながら無いと思いますが、資産運用の危険回避策としてのポートフォリオ(分散投資)のように、飼料確保の一部として国産飼料の活用を今一度考えてみて欲しいと思います。

国産飼料は高い、ましてや自給なんて機械代が合わないという判断をしたのは昔の話です。

様々なモノと同様にヒトの人的費も上がる中で、国産飼料のメリットは一定の安定確保を図れるところです。

#### 1) 国産粗飼料

国産粗飼料の代表といえば稲わらですが、発生量からみると確保できる余地は充分あります。

次に稲ホールクロップサイレージ(稲WCS)

は、籾が極めて少ない品種の利用や、専用収穫機が材料細断がより細かくなったことで品質も安定向上し、ひと昔前のサイレージにこりごりという方も試してみる価値があると思います。稲WCSの収穫には専用機械の購入が必要となりますが、栽培が水田ですので、生産調整を一層進める必要がある現状では、国の施策的にも継続されるものと思われまますし、需要が増えれば県内のコントラクターも安定した生産に取り組めるようになると思われまます。参考までに、現物1ロールの稲WCS（黄熟期・水分62.7%）と、購入乾草のスーダン80円/kg（水分15%）のものを比較してみました（表）。

この他、稲の代わりにトウモロコシ、スーダングラスや栽培ヒエ、稲の裏作の麦やイタリアンライグラスの自給が可能ですが、栽培ヒエ以外は栽培から収穫時までの排水対策は前提となります。

一部地域では、トウモロコシのホールクロップサイレージについても、コントラクターによる生産が定着しています。

## 2) 濃厚飼料

国産濃厚飼料の代表といえば飼料用米です。相対取引はもちろん、全農スキームにより入手しやすいのが最大のメリットです。ただし、既存の配合飼料と組み合わせて飼料設計をする場合は、配合飼料の中にも飼料用米が含まれてる場合があるので、家畜

の健康に影響が出ないように注意が必要です。

次に子実トウモロコシです。滋賀県でも今年、土地利用型農家と養鶏農家による生産組合が発足し、メーカーのデモ機の普通型コンバインにコーンヘッダを付けて収穫を行いました。3月末播種8月中旬収穫の水分は20%前後に下がり、作型にもよりますが、10a当たり700kg以上の子実トウモロコシを確保できました。



子実トウモロコシ 10 株の雌穂

子実トウモロコシは、播種、除草剤散布、追肥、収穫を合わせて作業時間が10a当たり1.5時間前後となっており、面積をこなすための転作作目として土地利用型農家が有望視していることから増える可能性があります。また、乾燥して倉庫保管しているので、畜産農家も使いやすいと思います。

全国的には、全量国産飼料で飼養して差別化や付加価値販売をおこなっているところもあります。

困難な情勢ですが、飼料を安定確保するため国産飼料に取り組んでみませんか。

(畜産技術振興センター・藤井)

表 稲WCSと購入スーダン乾草の現物TDN価格比較

飼料種類	現物量 (Kg)	現物TDN (%)	現物TDN (Kg)	購入価格 (円)	現物TDN価格 (円/現物TDNkg)
稲WCS	300	20.8	62.4	3,500	56.1
スーダン乾草	150	46.1	69.2	12,000	173.5

